



ニュースレター

2021 春季号

2021新年会開催の報告		P1
会長のあいさつ		P1
地震と防災に関する基礎知識 セミナーのお知らせ		P2

日系人の歴史とアイデンティティ セミナー報告		P3
気功エクササイズ		P4
シリーズ「啓子の窓」		P5
ひまわりカレンダー、お知らせ 編集後記		P6

ひまわり会は、イーストベイに拠点を持つ日本語を話す人のネットワーキンググループです。日本文化を接点とし、お互いに助け合いながら、より豊かな人間関係を築き、アメリカ生活の充実を目指します。

<http://Himawarikai.org>

mail@himawarikai.org

Himawarikai

P.O.Box 6428 Albany, CA 94706

ひまわり会

2021年新年会をオンラインで開催

ひまわり会では毎年おせちを食べながら総会・新年会を行っていますが、今年はコロナのため、初のオンライン開催。数か月前から準備し豪華なゲストで楽しい会になりました。

恒例のお正月の歌をビデオに合わせて歌い、好みの飲み物片手に皆さん笑顔で乾杯！河野さき子会長およびサンフランシスコ領事とJ-seiの来賓のご挨拶後、年次総会として昨年の活動報告と今年



柳家東三樓 師匠

の予定、会計報告と続き、8人の役員が各々自己紹介を行いました。

いよいよエンターテイメント開始。まず、パロアルトの若い太鼓グループのTaiko SOBA(そば)。メンバーの方から新年の挨拶と「おみやげ」という曲の収録映像を披露してもらいました。にぎやかな太鼓の音でお正月気分を盛り上げ、元気な若者からエネルギーをもらいました。

次いでジャズギタリストの伊達英夫氏がバークレーの自宅からライブ演奏。近年発売のCDから、出身の富山地方民謡の『こきりこ節』と日本を唄んで『ふるさと』をジャズ風アレンジでしっとり演奏し「ギターの美しい音色による日本の曲が心に響き涙が出た」という方も。最後にハービー・ハンコックのリズミカルな『ウォーターメロン・マン』。これもジャズ風アレンジで、

2ページに続く

会長のあいさつ 皆さま

デイトライトセービングス・タイムも始まり、桜も咲き始め、陽も長くなり、外ににいるのが楽しい季節になってきました。ワクチンも多くの人に行き渡るようになり、行動制限が減り、喜ばしい部分もありますが、まだ未知の部分も多くあり、現時点では旅行も勧められてはいませんのでご注意ください。

去年から新しいノーマルが始まり、人々はそれなりに新しい発見がありうまく変化に適応しているようですね。元に戻ることはないかもしれませんが、きっと来年あたりには限りなく元のような生活が出来る事と信じています。Covid-19の状況も国によって違い、日本にもまだ気軽にいけないようです。

最近、アジア人への犯罪・暴言・暴力が問題になってきています。事件・問題が多くの人により、いろいろなメディアを通して発信される様になっ

2ページに続く



ひまわり会創立50周年

2021年、ひまわり会は創立50年を迎えます。会員の皆さまと共に歩んだこの50年を振り返り、明日の礎とするための記念行事についてのご案内(P6)をこの機会にぜひご覧いただき、記念行事へのご協力、ご賛助をお願いいたします。



伊達英夫さん

「昨年YouTubeに公開後、作曲者本人からインスタグラムに“Good”の嬉しい反応が届いた」という本家お墨付きの演奏が披露され、心が癒やされました。

休憩後は目玉の落語。2019年に米国移住した真打・柳家東三桜師匠がニューヨークの自宅から三味線の出囃子と共に黒紋付の正装で登場。参加者もミュートを解除して笑い声で参加。赤い毛氈、座布団、屏風のなじみの背景に、扇子と手ぬぐいはアメリカならではの使い方の解説も。数種の小話で笑った後に、冬の古典落語「ときそば」を堪能。その後インタビューで「落語が国外で知られていないのが残念で、自分の人生の目的は落語を海外に広めていくことではないかと直感し移住を決意。今はコロナ禍のためオンラインの公演だが、全米50州を訪問し、落語の素晴らしい文化をアメリカに伝えていきたい」と語ってくれました。「本格的な落語がよかった」、「落語を好きになった」、「先駆者精神の前向きな姿勢に元気をもらった」、「励まされた」等々、東三桜師匠の落語だけでなく志に感銘したと多くの感想が寄せられました。“笑う門には福来り”、一緒に笑って規制生活のストレスも少し減った気がします。

最後は参加者にズームのポールでアンケートを取り、1番多い回答を当てるクイズ。出身地、在米年数、お雑煮やお節の好み、誕生月、血液型に関する質問など、計10問中最多の7問正解の方に日本食料品店の\$10ギフト券が贈られました。

予定の2時間を少し超えましたが「盛りだくさんの内容で楽しかった」という感想を多くいただき、嬉しく思っています。今年はひまわり会創立50周年の年。規制は続きますが、秋の50周年記念行事の他、オンラインでのイベントも続けて開催する予定です。今年もひまわり会をよろしくお願いいたします。



て、恐怖を感じている方も多いかと思います。外に出る時は周り(人)に注意をはらい、遠回りをして危険な場所を避ける、一人で行動しないようにする、などいろいろ考慮してみてください。最近はメールで情報(領事館からとワクチン接種に関して)をシェアしていますが、是非ニュース、カウンティやCDCの情報を元にリスクのある行動は避け、ご自分の出来る事をして、身を守ってください。

3月11日は東日本大震災から10年目でした。日本では2月に10年前を思い出させるような大地震があり、人々は震撼とした事と思います。大地震のリスクのあるベイエリアにとっては、これは他人事とは思えません。ということで4月には地震と防災についてのセミナーを開催することになりました。

また秋に行なわれる50周年記念イベントのために現在ボードメンバーがいろいろと準備をしておりますのでご期待ください。

ひまわり会はこれからもオンラインセミナー、メール、ニュースレターなどで皆さまの役に立つ情報を発信し続けてまいります！

会長・河野さき



オンライン・セミナーのお知らせ

地震と防災に関する基礎知識

日時:4月17日(土) 午後1時から約1時間半

講師:田島文子氏 (UC Irvine校・物理

天文学科で「地震の科学」講義担当)

方法:オンラインズームミーティング

費用:無料



東日本大震災から10年の節目として、テレビや新聞などで多くの報道がなされました。今世紀になってからだけでも世界中で大きな被害をもたらした大地震がいくつも起こり、このベイエリアでも大地震がいつ起こるかわからないといわれています。

講師の田島文子氏は、東京大学で学位(学士・修士・博士)を取得、米国(UCLA, Caltech, U Texas at Austin, UC Berkeley)で地震研究に従事されました。2014年からUC Irvineで講義を受け持つおられ、昨秋にひまわり会に入会されました。地震現象を理解し震災に備えるには何が重要か、などについてお話しをしていただき、後半では当会役員でお片付け専門家の河合順子さんが避難用品の準備についてお話しします。

参加ご希望の方はお早めに下記のリンクからお願いします。

<https://www.eventbrite.com/e/147892804359>

日系アメリカ人の歴史とアイデンティティ セミナー報告

ひまわり会では色々なテーマ、切り口でセミナーを開催しています。とりわけ、日系移民の歴史を学ぶことは自分たちに深く関係するテーマなので定期的に行なっています。

3月13日午後4時から、サンフランシスコ州立大学の教授であり、ご自身が「日系アメリカ人」である上運天(うえうんてん)ウェスリー氏をお招きして「日系アメリカ人の歴史とアイデンティティ」というテーマで講演をしていただきました。上運天氏は現在、沖縄で民族音楽を研究されており、日本からの講義となりました。

今回のセミナーで特に強調された点はアイデンティティとメモリー(記憶、思い出)との深い繋がりです。冒頭に上運天氏自身の唄と三線で演奏された「ていんさぐぬ花」はそのテーマを象徴するものでした。「ていんさぐぬ花」は古くから人々に愛されている沖縄県民愛唱歌で、多くのアーティストによっても歌われています。その歌詞は土地への感謝、その地に長く住んでいる人々、親の教え(メモリー)を守り、耳を傾けることの大切さを歌ったものです。人は記憶を失うとどうなるのか?、アイデンティティとはメモリーに支えられた自分の存在を認識することです。そして”記号としての言語”によるコミュニケーションには限界があるが、共有されたメモリーを通じてのコミュニケーションはより深いレベルで行われるという点が指摘されました。

アメリカでは西部開拓史においてマニフェスト・デスティニーというイデオロギーにより、ヨーロッパ人による植民地化と土地の収奪が正当化されてきました。その思想は「神に選ばれたすぐれた人種(白人)が他の劣った人種(先住民や奴隷)を導く」ことが神の意志にかなう」というものでした。



南北戦争以降、奴隷制度の廃止によりアメリカで低賃金労働力の需要が高まりました。その供給先をアジアに求めたこ

とで日本人が主に農業労働者として渡米したところから日系アメリカ人の歴史が始まります。彼らは白人に所有されてはいないものの、厳しい人種差別がありました。さらに日系人は、日本が日露戦争で白人国家に勝利した唯一の有色人種国家であったこと、また西海岸における日系農家の成功やコミュニティが興隆したことにより、白人社会にとって脅威と感じられる存在になっていきました。

日米開戦後、米国では16分の1、日本人の血が入っていると日本人(敵性国民)とみなされ、強制収容の対象となりました。また南米に移住していた日系人も強制収容の対象となっていたことも知っておかなければなりません。

また第二次世界大戦後、アメリカの軍事的植民地にされていた沖縄で人々は人種差別、暴行被害を経験しましたが、それを一般人が語ったとしてもその話は歴史上の事実として認められていません。体験者のオーラルヒストリーが歴史の中で正当に評価されていない、というのが現状です。

終わりに参加者からの質問に答える形で上運天氏が提示されたのが「メモリーの民主主義 (Democracy of Memories)」という考えでした。「白人至上主義」からの解放を目指し、ひとつの価値観を他の人種に押し付けないこと。異なる人種間で音楽、料理、物語などにおいて経験を共有し、互いに語ることで相互の理解を深めることができるのではないか。この問題(人種差別)については世代を超えて意識を変えていく必要があるが、次世代は自分たちよりも人種的偏見に縛られていないように見受けられ、私自身はそこに希望があると思う」と述べられました。

ご参加いただいた方々から「“肝・心”を最初に教えていただき感謝」、「日系アメリカ人の歴史と戦後の沖縄を結びつけて語ってくれたのは重要な視点だと思う」、「多角的な視点にたったお話でとても良かった」、「個々の自己肯定と他者への寛容を今一度確認できた」、「講師の“心で話す”という姿勢に感銘を受けた」、などなど多くのご意見をいただきました。

参考ウェブサイト

<http://www.discovernikkei.org/en/>





シリーズ「気軽に気功エクササイズ」 サンノゼ気功院 内藤雅啓

元気になる気功

A. 大きく声を出して元気になる

姿勢: 左足を一步前に出し、両手を伸ばして胸の高さまで上げる。

1. 息大きく息を鼻から吸いながら、手を胸の位置まで引く
2. 手『ハッ』と大きく声を出し、手を前に伸ばす。

これを、3回から8回繰り返す。

次第に、体が温まってきて元気が出ます。



B. 体をクネクネ動かし元気になる

姿勢: 肩幅に足を開き、左手を下にして両手を頭の上まで上げる。

1. 両手はそのままの状態、頭を右に倒し、お尻を左に伸ばす。
2. 頭を左に倒し、お尻を右に伸ばす。

これを32回繰り返す。

血行が良くなって元気が出てきます。



内藤先生

「気功エクササイズ」のクラスは現在ZOOM (R)を使ってインターネット上で行っています。ご自宅から気軽に参加でき、初回は無料です。この機会にぜひ気功エクササイズをご体験ください。2回目からの参加費: 会員\$5.00/ 非会員\$6.00です。詳細お問い合わせは春海三悟(はるみ さんご) Sangoh35@gmail.com; (510)435-4017までどうぞ。



シリーズ「啓子の窓」 『中国語と日本語』

2021年3月
山中啓子

中国語を習い始めて9ヶ月になる。コロナ禍の余暇として始めたのだが、一進一退で進歩は遅い。でも今でも続けているのだから、面白いのだろう。北京出身の友人がズームで1週間に一度90分教えてくれる。2ヶ月前から第十課を終えたところで教科書に問題があつて、ここしばらく足踏みをしている。その間、新しい教材を探したり、オンライン授業を試したりしている内に、中国語について考えるようになった。

元々目的があつて始めたのではないので、ここに及

漢字

んで何故中国語を勉強しているのか
考えて始めたのだから、真意は疑わしい。ただ面白いから、興味があるからとしか言い

ようがない。その中心にあるのが、何故中国語と日本語はこんなに違うのだろうかという問いである。異なる言語だから違うのは当たり前でも、漢字という表意文字を共有しているから、全くの外国語という感じがしないのでわかるはずという期待がある。ところがいざ始めてみると、わからないことが多くてとまどっている。

まず同じ漢字でも発音が全く違う。例えば、同じ意味の「学校」の読み方はxue xiao、そして「先生」はxian shengであるから、学ばなければ発音できない。発音はピンインというアルファベットの音と四声のトーンで表す。中国語の漢字の読み方はひとつだから、覚えれば簡単である。ただ、同じ発音を持つ漢字が幾つもある。一例として、xianと辞書を引けば、60個くらいの漢字が出てくる。簡体字であることと日本語にはない漢字も多いので、殆どわからない。それに日本語と中国語で同じ漢字を使っても意味

が違う。例えば、「説」は話す、「去」は行く、「走」は歩く、を意味する。

要は、日本語と中国語は違うのだということがやっとわかってきたのである。そこで調べたところ、劉明・鷺尾紀吉著による「中国語の日本語への影響」という短い論文がヒントをくれた。それによると、古代の日本語が話し言葉だけであつた頃に中国漢字が日本に伝えられ、日本語の表記に使われた。奈良・平安時代の遣唐使や留学僧により漢音がもたらされ、漢字の音読みになっていく。また、既に存在していた日本語と漢字の意味を結びつけて日本語の表記に用いることにより訓読みが発達し、和漢混淆文ができあがつた。つまり、日本人は中国語の単語を借用し、漢語を日本語と合成して和製漢字を造るようになったのだ。

これでどうやら納得がいった。今私たちが使っている日本語の漢字は、二千年の時間をかけて中国漢字が

日本語化されたものだから、当然元の中国漢字の意味と使い方とは違うのだ。ということは、独自に発展した日本漢字を基に中国漢字を理解しようとするのは正しくない。また、中

国語もその間に変化・進化しているはずだ。ただ、二者が重なるところも多いのだから、それは助かる。何よりも、日本語ができる人は、漢字の基礎が備わっている大きな特典がある。こう考えると私が直面した問いは、日本人が中国語を習う過程でぶつかるひとつの壁なのだろう。これで少しほっとした。新たに出直そう。



ひまわり会カレンダー

4月

古本市はお休みです。

毎週木曜日「気功エクササイズ」10:00~11:30 am

14日(水) 花かご 1:00 - 3:00 pm, ZOOM

18日(土) セミナー 1:00 pm, ZOOM

地震と防災に関する基礎知識

5月

古本市 未定*

毎週木曜日「気功エクササイズ」10:00~11:30 am

12日(水) 花かご 1:00 - 3:00 pm, ZOOM

6月

古本市 未定*

毎週木曜日「気功エクササイズ」10:00~11:30 am

9日(水) 花かご 1:00 - 3:00 pm

*未定のイベントについては開催内容・時間などが変更・中止となる事があります。 ひまわり会ホームページ、またはそれぞれのお問い合わせ先にご確認ください。

花かごへのおさそい

『花かご』は、2017年4月に始まった「日本語で書くことを楽しむ会」です。

毎月第2水曜の午後1時半から3時、俳句、川柳、詩、エッセイなどの作品を読みあい、交流を楽しんでいます。昨年春からはズームで開催しており、ひまわり会の会員はどなたでも参加できます。現在は17名の方が登録されており、毎月書けなくても、集まりには毎月参加される方もいらっしゃいます。

これまでは「花かご便り」として、ニュースレターに掲載していましたが、今年1月から会員の皆さまに毎月Eメールでお届けしています。また、ひまわり会のウェブサイトにも掲載しています。リンクはこちら；

<https://himawarikai.org/hanakago/>

難しい規約に縛られずに自由に創作した季節感あふれる俳句、思い出や日常の思いなどをつづった詩やエッセイをどうぞお楽しみください。

参加ご希望の方、お問い合わせ、ご感想は himawarihanakago@gmail.comまでお気軽にどうぞ



ひまわり会創立50周年 記念行事のご案内とお願い

ひまわり会は2021年、創立50周年を迎えます。これを記念して現在以下のプロジェクトを計画しています。

1. ひまわり会50年のあゆみ(仮題)ビデオ制作

約15分。ひまわり会誕生の経緯、時代背景、いろいろな活動に関わった方々のインタビュー、そしてさまざまな資料などで50年の歴史を振り返ります。

2. 「わたしにとってのひまわり会」エッセイ募集

ひまわり会にまつわるエッセイ、ご意見をウェブサイト、ニュースレターなど様々な機会でご紹介します。また優秀作品には賞品も準備します。

3. 50周年記念親睦会(仮称、10月ごろを予定)

現在のところ実際に集まれるかどうかは確定できないためオンラインで行うことも視野にいれて計画しています。

ご寄付

創立50周年記念ビデオ制作のための ご寄付を募集しています。

ひまわり会はIIBAに所属する非営利団体です。501(c)(3)団体に適応される税の控除が受けられる文書をご希望の方はご連絡ください。

連絡先 keijiohshita@mac.com

標題(subject)に Himawari50 とご明記ください。



編集後記

オオシタ ケイジ

このスペースは編集作業へのご褒美として私にいただいたものだ、と勝手に解釈している。毎度の与太話だが、今回も懲りずに書く。なので今読んでいただいているあなたに、改めてありがとう！

では、本題の与太話。私は音楽が好きだ。現在はアップライトベースでジャズの演奏を楽しんでいる。しかしベースという楽器は他の楽器とのアンサンブルが楽しいのであって、一人の練習には限界があると思う。特にアップライトベースは解放弦をのぞいて、音程は演奏者が決める。音程の微妙なちがいが全体のサウンドに表情を与え、ハーモニーを豊かにするのである。私は一緒に演奏しているピアノやギターとのハーモニーを感じながら演奏している。そんなことと関係があるのかどうかわからないがベーシストは一般に、温厚で調和を好む性格の人が多いように思う(自分のこと?)。ボーカル担当は自己主張が強い、とか、ギタリストはお洒落さんが多いとか…。とにかく早く、仲間と一緒に演奏できる日が来ることを祈る毎日である。